

# IV

## ガンが 奇跡的に改善、 完治した数々の例

### ◎乳ガン手術後再発：48歳女性

手術後切除した部位にガン再発。当クリニック治療による3カ月で完治。

### ◎肺扁平上皮ガン：62歳男性

手術出来ない場所に肺扁平上皮ガン出現。当クリニック治療でマーカーは正常になる。

1年経つが、ガンマーカーは正常化したまま。体調すこぶる良好。

### ◎大腸ガン術後腹膜転移：34歳男性

CTで腸管や腹膜に転移ありといわれた。

抗ガン剤治療も難しいが、それしかないといわれた。当クリニック治療で完治。  
**◎腎ガン肝転移…52歳男性**

この診断をある大病院で受けたが、手術も抗ガン剤も拒否して、当クリニック来院。当クリニックの免疫強化治療とスマンクス療法を熊本の永光医師に依頼。何と1年半後どちらも完治。現在6年も経つが、全く異常ありません。

※スマンクス療法…肝ガンと肺ガンの場合、私は永光医師にお願いして、この療法を私の療法に加えやってみようことが多い。スマンクス療法は、抗ガン剤を水分子の20000倍の大きな分子にしたものを、カテーテルで直接ガン細胞に貼りつける治療です。巨大分子ゆえ、決して身体中に流れることがないため、副作用は全くゼロと極めて優れています。ガン細胞は、抗ガン剤が直接貼りつかれた形のため、少しずつ消失していくのです。

また、全身に散らばった微小ガンも、1カ所のスマンクス貼付の後、消えていくことが多いのです。その理由は多分「ホメオパシー」の原理からと思われる。ただ、スマンクスをやる人は、必ず当クリニックの免疫療法を受けるべきと思います。というのは効果が5倍も10倍も違うからです。

**◎C型肝炎で肝硬変と肝ガンの例…62歳女性**

肝硬変にはプロテアーゼ、ラフィノース、オリザロースが特効します。なぜなら、プロテアーゼが全ての食物のタンパク質をアミノ酸に消化してくれるため、肝機能低下の肝硬変患者に最良のタンパク質補給が出来るからです。

この人は、このプロテアーゼとラフィノースやオリザロースを使い、食養生をして大変改善したのです。ただ念のためスマンクスも勧めたのですが、永光医師から免疫療法で大変良くなっているため「不必要」といわれました。現在6年経過しているが相変わらず絶好調。

### ◎膀胱ガン：51歳女性

血尿がいつも出現、膀胱ガンといわれ抗ガン剤投与されたが極めて悪化。当クリニック受診。当クリニックの免疫療法で完治。現在は元のリウマチ治療に専念中。

### ◎胃ガン腹膜リンパ節転移：62歳女性

当クリニック受診後半年。現在当クリニックにて治療中だが、体調はすこぶる改善。国立ガンセンター所見ではガンは横ばいで良くも悪くもなっていない。

### ◎肺ガン（線ガン）が巨良くなった例：47歳女性

当クリニックで治療していた10カ月間は、どんどん良くなって完治が期待できたが、

抗ガン剤を病院で行われた後、急激に悪化して当クリニクには来なくなった。当クリニクの免疫療法でSLXというガンマーカーは、当初135という高値だったが(35以下正常)、半年で30・5にまで下がった。また、体調もすこぶる良くなった。しかし、抗ガン剤を受け入れたことがこの人の運命を変えた。

◎**子宮体ガン改善例：70歳女性**

全身転移して来院。当クリニク治療でもつて3カ月から劇的に改善。

◎**卵巣ガン腹部リンパ節転移改善例：49歳女性**

手術後転移し、当クリニク来院。

免疫強化でみるみる改善。マーカーも正常値。

P A R T ・ 2

**酵素食と免疫賦活剤、遠赤外線などで**

**余命3～5カ月の胃ガン腹膜転移を治癒**

**胃ガン腹膜転移(腹水)：男性68歳……………**

2005年夏、検診で胃ガンの腹膜播種(腹水有り)と診断され、手術は出来る状態では

なく、抗ガン剤も無効のガンといわれホスピスを紹介されたが、患者さんは、ホスピス行きは断り、当クリニック受診。もって3〜5カ月の命といわれた。私は酵素食を指示し、酵素サプリメントと免疫賦活補助食品を出し、鍼や遠赤外線を浴びせながら、手を変え、品を変え治療。2006年2月まではTS1を使用したのが中止。

4月からマドゥ氏の指導によりプロテアーゼを大量に投与開始。普通使用の4倍量に切り替えたところ、みるみる改善。1カ月に1回は蛙の腹のように溜まった腹水は、往診専門医に抜いてもらったが、少しずつ溜まらなくなり、とうとう消失。本人曰く、「腹水さえ溜まらなければ食欲もあるし、痛くもないし、よく眠れ、言うことない」といった状態から、「何ともなくなつた」に変わった。

これは、全く奇跡的症例と思われます。普通ガンの末期でも、それなりに良くなることはあっても、胃ガン腹膜転移の腹水は治ることはないからです。

## 酵素食と免疫賦活剤と

### プロテアーゼが末期ガンを治癒

前立腺ガン肺転移リンパ転移…74歳男性……………

この人の経過は劇的です。女性ホルモンを投与しても良くならず、病院の紹介状にはもって半年の命とまで書かれた程の人だったのに、当クリニックに来てからは短期間でほとんど完治してしまっただからです。2006年6月においでの際のガンマーカーPSAは、7780（4以下が正常）。それがみるみる正常化。病院で肺の検査をしてもらいましたが、全く正常に改善。

最初が7756という高値。それが4カ月もしないうちに正常範囲の1.67！ 酵素食と免疫賦活剤とプロテアーゼの威力はすさまじいといわざるを得ません。

### 脊髄横断ガンで

### 下半身麻痺が治った

前立腺ガン脊柱転移の症例…Mさん65歳……………

これは奇跡中の奇跡の例です。2004年夏のある朝、目が覚めトイレに行こうとして立ち上がろうとしたら、下半身が全く動かないことに気付きました。両手と首しか動かないため大声で娘を呼び、すぐ救急車を呼んでもらい病院に搬送。すぐ入院となり、色々の検査の結果判ったことは、前立腺ガンがベースにあり、それに気付かないうちに脊柱（胸椎）に転移して脊髄神経の流れをストップしたため、下半身が麻痺したということでした。すぐ緊急に手術し、脊柱にこびりついたガンは、眼で見えるものは全て切除されましたが、何日しても下半身の麻痺は相変わらずでした。そして退院後、当クリニックに来院。当然車イスでした。

彼には、**酵素食（最初は酵素ファスティング）と酵素サプリメント（プロテアーゼ、腸酵素）とオリザロース（2包）を投与、**又リハビリと食養生をしっかりとやるよう指示。プロテアーゼは常用の3倍量を投与。彼は、その後厳格に酵素食をやった後、長期間温泉のあるリハビリテーション施設に滞在しました。そして2005年の春頃から奇跡が起りました。何と下肢の神経が少しずつ回復してきたのです。リハビリで、伝い歩きが出来るようになったのです。

そこで5月からプロテアーゼ量をさらに増量（1日12カプセルから1日18カプセル）した

ところ、下肢の神経はみるみる回復。杖をついて歩けるようになりました。

当然痛みも痒みも判るようになったのです。2005年10月には杖もいらぬまでに歩行可能になりました。リハビリの温泉病院ではこんな例は全く1人もいない、1万人いや10万人に1人の奇跡とまで言われました。2005年12月杖なしで当クリニックへ来院。また2006年4月、7月来院。年ごとに回復振りは目ざましく、杖なしでも当初はよたよたした歩きっぷりから全くの正常状態に改善。さらにすごいのは、**前立腺ガンそのものも全身転移のガンも一切が消えてしまったこと!** 2007年7月現在、この患者は相変わらず絶好調。なおこの人には女性ホルモン剤は使用していません。

## 抗ガン剤の副作用を軽くするための 免疫サプリメントでガンが縮小

### 肺腺ガン…53歳女性……………

この女性は、2005年8月にガンの専門病院で肺の腺ガンと診断されました。大きなガンの塊の周囲にも細かく散らばっていたため、手術は不可能と判断され、入院して化学療法を行う方向でスケジュールが組まれました。



この女性が当クリニックを受診したのは、その直後のことです。抗ガン剤治療は、その副作用により、体に強烈なダメージを与えます。その副作用を軽減するために当クリニックの治療を受けて、免疫力を強化しておきたいということでした。

この女性にも3つの治療法（物理療法、免疫サプリメントの摂取、ファステイング）を行ってもらうことにしました。3つの治療法を1カ月半行った後、女性は予定通り入院して抗ガン剤治療が始まりました。食事は病院食を極力減らし、こちらで指示したものを多く摂ってもらうようにしました。入院中もサプリメントは継続して摂ってもらいました。

治療効果は、「ガンの縮小」という形で現れました。心配した副作用も、髪は抜けたものの嘔吐をすることもなく、重篤な症状に至ることは皆無でした。

その後も時間を置いて何度か入院をして抗ガン剤治療を受けましたが、ガン細胞は縮小する一方で、副作用もごく軽いものでした。

その病院は、ガンの専門病院で、女性が入院していた病棟は肺ガン患者ばかりでした。多くの患者の中でこの女性のように劇的な治療効果が出て、かつ副作用の少なかった人は滅多にいません。そのため、同じ病気で苦しむ何人もの人たちから不思議がられたそうです。

※私は、抗ガン剤は反対の立場の医師ですが、どうしてもやりたいという人には拒否をせず、私の免疫療法と併用させる場合も良くあります。上記はその併用がすごく上手くいった症例です。